

全国につながる

連携の

輪

特別区  
競馬組合



多くの来場者で賑わった「北海道ウマイものフェス」

## 抜群の集客力で地方の魅力発信

大井競馬場は、地方との関わりが深い娯楽施設です。同競馬場では全国の地方競馬の馬券を買うことができる一方、地方でも場外発売所などで大井競馬のレースの馬券を買うことができます。また、競馬場はレースの開催日となれば、たくさんの方々が来場者でにぎわうので、地方都市の物産展なども頻りに開かれています。昨年11月にオープンした「U MILE SQUARE (ウマイルスクエア)」は、「馬産地北海道ウマイものフェス」「全国ねぎサミット」などが開催され、来場者が地方の特産品に触れたり、地方都市との交流につながる拠点となっています。

### 競馬場を全国連携の拠点として

#### 馬産にスポットを当てたイベント

大井競馬場では11月3日、「ダーツ競馬の祭典」(JBC (Japan Breeding Farms' Cup) 競走が開催されました。この日、メインのJBCクラシックで勝利した馬は、サウンドトゥルー。出身は北海道の新ひだか町です。2001(平成13)年から全国の地方競馬場で持ち回りで開催されてきたJBCは、競馬の生産者が主導して実施する競走です。その原点は、全国の地方競馬が不振で存廃が議論される中、生産者としての競馬の現状に対する危機感、自らが立ち上げ

ろうという決意です。

地方競馬の魅力を既存のファンに発信するだけでなく、これまで競馬には馴染みの薄かった人たちの来場にもつなげられないか。今回のJBCでは、「馬産」にスポットを当てたイベントを開催することになったのです。

11月1日から3日までの3日間、日本競馬の一大サラブレッド産地である北海道にスポットを当てた「馬産地北海道ウマイものフェス」が、特別区全国連携プロジェクトの一環として大井競馬場で開催されました。北海道の「食」の魅力を存分に堪能できるイベントで、3日間の競

馬場来場者が約4万人に及んだことから、多くの人で賑わいました。

会場となったのは、大井競馬場の旧3号スタンド跡地に開設された1万平方メートルの都市型イベントスペース「UMILE SQUARE（ウマイルスクエア）」です。特別区競馬組合では、大井競馬場を「アミューズメントパーク大井」と位置付けて、競馬開催を基本に「365日活用できる」「地域と共生する」「都市型アミューズメントパーク」を目指しています。ウマイルスクエアはナイター照明も可能で、飲食関係のフェスや演劇、スポーツなど、利用者のニーズに合った多様なイベントに対応できます。

## 東京初開催の 全国ねぎサミット

このウマイルスクエアでは昨年11月に「全国ねぎサミット」が開催されました。

同サミットは2010年から国産ネギの消費拡大と地域の活性化を目指して各ネギ産地の持ち回りで開かれています。7回目となった昨年は、28の自治体・地域が参加。特別区全

国連携プロジェクトの一環として特別区長会、特別区競馬組合、東京都競馬株が主催し、「食」のテーマのもと全国各地との連携・交流事業として位置付けました。

会場では名産ネギの販売や、ネギを使った料理が振る舞われ、来場者を楽しませました。特設ステージでは、各産地から集まった16種のゆるキャラによるショーや、来場者参加

ウマイルスクエアで開催された  
全国ねぎサミット



の「利きネギ選手権」、ネギ産地によるPR企画などが行われました。国内最大級のフードフェス「肉フェス」との初のコラボレーションも実現しました。

今回は、大消費地である東京での初の開催。東京からネギの魅力を全国に発信する絶好の機会となったのではないのでしょうか。

## 毎年行われる「相馬野馬追」

大井競馬場では、こうした地方都市との連携は、これが初めてではありません。

大井競馬場では毎年、国の重要無形民俗文化財である「相馬野馬追」が行われています。福島県相馬地方に古くから伝わる伝統行事で、騎馬武者が壮大な戦国絵巻を再現します。大井競馬場では1977（昭和52）年8月28日に開催されて以来、福島県南相馬市や南相馬観光協会などの多大なる尽力によって近年毎年実施されています。2012（平成24）年からは東日本大震災の復興応援イベントとして行われています。

相馬地方では毎年7月に「相馬野

馬追」が行われ、400騎を超える勇壮な騎馬武者が登場し、「世界の馬の祭典」と評されています。中でも、先祖伝来の旗差物をなびかせながら風を切って疾走する行事「甲冑競馬」は最大の見どころです。

大井競馬場での「相馬野馬追」との縁は深く、過去には大井競馬場と友好交流を結んでいるアメリカのサントアニタ競馬場で行われた「TOKYO CITY CUP」当日に、日本の文化を紹介するジャパンファミリーデーの一環として「相馬野馬追」を実施したことがあります。

## ばんえい競馬の馬券を買い

地方都市との交流は、こうしたイベントだけではありません。

大井競馬場には、「ふるさとコーナー」という他の地方競馬の馬券を扱うことができる場所があります。ホツカイドウ競馬（北海道）、ばんえい競馬（帯広市）、名古屋競馬（愛知県）の馬券が買えるので、コアなファンに人気です。

名前の通り、自分のふるさととのレースの馬券を買い、うのもいいですが、世界で唯一のばんえい競馬に夢

とロマンを託すのも、競馬ファンにはたまらないでしょう。ばんえい競馬は、体重1トを超える馬が重りを乗せた鉄ソリを引いて直線コースで力とスピードを競います。北海道開拓時代の農耕馬が現代のレースへと受け継がれ、今では北海道遺産として人々に感動を与えています。

長年、帯広市を含む北海道内の自治体が共同で運営してきましたが、2007（平成19）年度から帯広市が単独で運営しています。一時は売上が低迷しましたが、インターネット投票の認知度向上に伴って、全国的に人気が盛り返してきました。

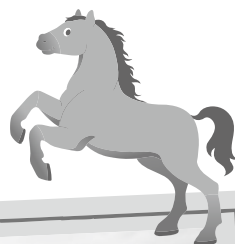
今年8月13日には大井競馬場でばんえい競馬のPRイベント「ばんえい十勝 in TCK2017」を実施。当日はばん馬が大井競馬場に登場し、子供たちとふれあいました。

## 競馬を観て、物産展を見て

他の競馬場のPRや売り上げに貢献するだけでなく、開催日に合わせた様々なイベントで、全国の地方都市の物産展やPRを行っています。

10月4日と5日には、大井競馬場の場外発売所であるオフト新潟（新

他の地方競馬の馬券を買えるふるさとコーナー



ばんえい競馬のPRイベントでばん馬とふれあう子供たち

潟）、オoops中郷（新潟）オフト伊勢崎（群馬）、オフト大郷（宮城）、オフト京王閣（東京）、オフトひたちなか（茨城）、オoops磐梯（福島）による物産展を実施。地元の野菜や地酒などを販売しました。また、当日にはオフト・オoops場外発売所

の冠競走も実施しました。10月6日には、大井競馬場の小林分厩舎が所在する千葉県印西市のPRイベントを実施。当日は「印西市」の冠が付いた「印西市コスモス賞」が実施されたほか、印西市のキャラクター「いんザイ君」が登場。印西

市の物産展も開かれました。

## 地方競馬はウイン・ウインの関係

大井競馬場では、他の競馬場の売上に貢献する取り組みをしています。同時に全国には75の地方専用、7の地方・中央共用の場外発売所があり、大井競馬場の売上の約30%は場外施設の売上で成り立っています。競馬場の売上増は、地方競馬を運営する自治体への分配金の増加にもつながります。他の地方競馬と大井競馬、競馬を運営する自治体同士は、お互いウイン・ウインの関係にあると言っていていいでしょう。

それだけでなく、様々なイベントなどを通して、大井競馬場は地方都市の魅力の発信拠点ともなり、地域経済の活性化に貢献してきた点も見逃せません。日本で初めてナイター競馬を実施し、全国でも有数の競馬場である大井競馬場の持つ集客力は、新たにオープンしたウマイルスクエアの活用も含めて、一自治体では限界がある大きなポテンシャルを持つ存在です。特別区競馬組合が大井競馬場を拠点に仕掛ける「全国連携」にこれからも期待したいと思えます。